

移住・定住人口を増やす取組み

「飛んでるローカル豊岡」

飛んでるローカル豊岡とは？

市では「飛んでるローカル豊岡」(Think Local, That's Global)というキャッチフレーズを掲げて、さまざまな移住・定住プロジェクトを行っています。「飛んでる」という言葉には、コウノトリが悠然と羽ばたいている様子と、とがっついて他とは違う「ぶっ飛んでいる」という意味があります。豊岡と大都市を比較するのではなく、このまち固有の資産や魅力を生かし、新たな価値を生み出すことが世界に尊重される道である、という想いが込められています。

市民ライターがリアルな暮らしを発信！

「飛んでるローカル豊岡」の取組みの一つに、移住・定住ポータルサイトがあります。豊岡市民がライターにな



▲豊岡市移住・定住ポータルサイト「飛んでるローカル豊岡」

り、市民目線の豊岡のリアルな暮らしを記事にし、発信しています。内容は、暮しのさまざまな幸せから、まちの魅力紹介、イベントのレポート、子育て・医療の制度など。市民ライターが自らネタを探し、写真を撮り、記事を書いています。

市民ライターとして活躍しているのは、会社員をはじめ

カメラマンや彫刻家、大学生など、肩書きは幅広く、市外から結婚をきっかけに移住してきた人、本市出身で実家を継ぐために戻ってきた人など、出身地や豊岡への移住に至った経緯もさまざまです。

移住希望の市外の方を対象にしたウェブサイトの記事には、豊岡の隠れた魅力や情報満載で、市民が豊岡の魅力

に改めて気付くきっかけにもなっています。

暮らしの本音をフリーペーパーに



▲フリーペーパー

2017年度には、市民ライターが作るフリーペーパーの第一弾「移住のホンネ サユリの場合」を発行しました。移住をイメージしてもらったために、豊岡の暮らしの良いところだけではなく困ることや悩みなども含めて本音を伝えたい、という想いから生まれました。また、18年度には、第二弾となる『豊岡在住の「履きもん」』を発行。誰の暮らしにも関わる「履きもん」を切り口に、豊岡に住む人々の等身大の生活に密着しました。

これらの冊子は、東京や大阪など都市部の移住相談窓口の他、環境経済課をはじめ市内各所に設置しています。

交流の場と新しい価値づくり

豊岡での暮らしがもっと楽しくなるように、2019年度は、市民ライターがイベントを企画・実施しています。8月27日に開催したお絵描きワークショップ「海の生き物つくってあそぼう」は、豊岡で子どもたちが伸び伸びと感性を育てられる場をつくりたい、という想いから始まりました。27人の子どもたちが、イラストレーターや画家として活躍する市民ライターのサポートを受けながら、思い思いに海の生き物の絵を描きました。自分たちが描いた絵を使って、釣りゲームも楽しめました。

これからも市民の暮らしが豊かになる場をつくっていききたいと思っています。



▲伸び伸びと絵を描く子どもたち

第二の居場所「暮らしのパーラー」

暮らしのパーラーとは？

暮らしのパーラーとは、市民と移住希望者が最初に出会う交流窓口の名称です。10月1日に開設しました。運営するのは今年2月に本市で設立された会社「株式会社『CYCLE』」。北近畿を中心に観光PRや地域ビジネスに携わった経験を持つ中原大輔さん(40)が、若い世代の移住希望者や、国内外からの観光客が増加している本市に提案し、委託を受けました。ふれあい公設市場内にあるカフェの一部を間借りして、



▲株式会社CYCLE代表の中原大輔さん

休日や祝日などの移住相談対応や、訪れた観光客のコンシェルジュ(世話役)としてまの魅力を伝えます。その他、イベントなどで家庭や仕事以外で新たなつながりをつくるための「居場所づくり」を行うことで、多様なコミュニティが生まれることを期待しています。駅や市役所からもアクセスが良く、地域の方が通う公設市場。日本最古の木造市場という環境を生かし、豊岡の暮らしに根付いた情報発信を行っていきます。加えて、周辺にはレトロで歴史的な建物も数多く残っていることから、将来的には、空き店舗を活用した商店街の活性化につながる取組みとして、これから店舗開業を希望する方へのサポートも行っていきたいと考えています。

市民目線で豊岡のまちや暮らしの魅力を伝える場所

暮らしのパーラーには大きく

二つの機能があります。一つ目は「まちや暮らしの魅力を伝える」ことです。現在増加する移住者のうち30歳代以下が69%を占めていることから、これからの地域経済を担う子育て世代をターゲットに豊岡の魅力を伝えていく必要があります。「飛んでるローカル豊岡」の考え方と同様に、暮らしに根付いた市民目線のまちの魅力を移住希望者や観光客に対面形式で伝えていきます。

「暮らしのパーラー」の二つの機能



魅力的な人や多様なコミュニティと出会える場所

二つ目は「魅力的な人と出会える」ことです。

移住希望者が実際に移住してみて「こんなはずじゃなかった」と理想と現実のギャップに悩む事例は全国的に後を絶ちません。暮らしのパーラーではその解決策の一つとして、家庭や仕事以外の第三の居場所

「KAMINO COFFEE」「くまき写真館」

暮らしのパーラーの拠点となる「KAMINO COFFEE」(千代田町2-24)。ふれあい公設市場内にある自家焙煎のコーヒーや焼き菓子が楽しめるカフェとして、近所のお年寄りから高校生まで、市民の憩いの場として親しまれています。営業中に移住の相談も行います。カフェ定休日には2階の「くまき写真館」で移住相談を受け付けします。



▲暮らしのパーラーの拠点となるカフェ「KAMINO COFFEE」と「くまき写真館」

があることが重要と考えています。オープンなカフェで世代や肩書きを越えたさまざまな人が集い、イベントなどへの参加を通じて魅力的な人や多様なコミュニティとの出会い、つながりが生まれ、それが明日からの暮らしの活力に変わる居場所づくりを目指していきます。

《問合せ》環境経済課 ☎ 9096

2~3

今月のイチオシ

4~5

市政ニュース

6~14

豊岡 クローズアップ

15~21

くらしの情報

22~23

保健行事

24~25

つどいの広場 図書館

26~27

主な相談 主な行事